

中世とはどんな時代？

～武士の時代のはじまり～

一九〇〇	一八〇〇	一七〇〇	一六〇〇	一五〇〇	一四〇〇	一三〇〇	一二〇〇	一一〇〇	一〇〇〇	九〇〇	八〇〇	七〇〇	六〇〇	五〇〇	四〇〇
アイヌ文化期										擦文時代			統		
										オホーツク文化期					
近代・現代	江戸時代		安土桃山時代	室町時代	南北朝時代	鎌倉時代	平安時代			奈良時代	飛鳥時代	古墳時			
	一八六八 江戸が東京となる		一五七六 信長、安土城を築く 一六一五 大坂夏の陣 江戸城と城下町の整備	一四六七 応仁の乱、戦国時代へ 延暦寺・根来寺の僧兵、力を伸ばす 戦国大名が城館・城下を築く 銀の輸出が増える	一二七四・一二八二 文永・弘安の役（元寇）	末法思想の流行により経塚がつくられる 中国から陶磁器・銭貨が大量に輸入される 一一九二 源頼朝、鎌倉幕府を開く			六四五 大化の改新、律令国家の形成へ 律令体制が地方にも及ぶ 各地で寺院が盛んに造営され仏教が広まる 六九四 藤原京を造営する 七一〇 平城京に都を移す 醍醐など北方地域との交渉をもつ 八〇二 坂上田村麻呂、胆沢城を築き、東北経営を進める			五三八 百濟から仏像・教典伝来	武器・武具が古墳に盛んに副葬されるようになる 南九州で横穴墓を作り始める		

中世の特徴

- “都市船橋”の原型が成立した時代
- 現在の生活様式の基本パターンが生まれた
- 全国各地に要津(主要な港)が存在する
→国内および海外との交易がさかん

中世の湊(津)図



全国の湊 (津)

(『海にひらかれたまち—中世都市・品川』所載の図)を修正・加筆

◎発掘資料からみる中世の生活

◎中世の湊町（みなとまち） 船橋について

◎出土した中世の交易品について

1. 出土資料が語る中世の生活

◎バラエティーに富む中世の遺物
～さまざまな種類・産地～

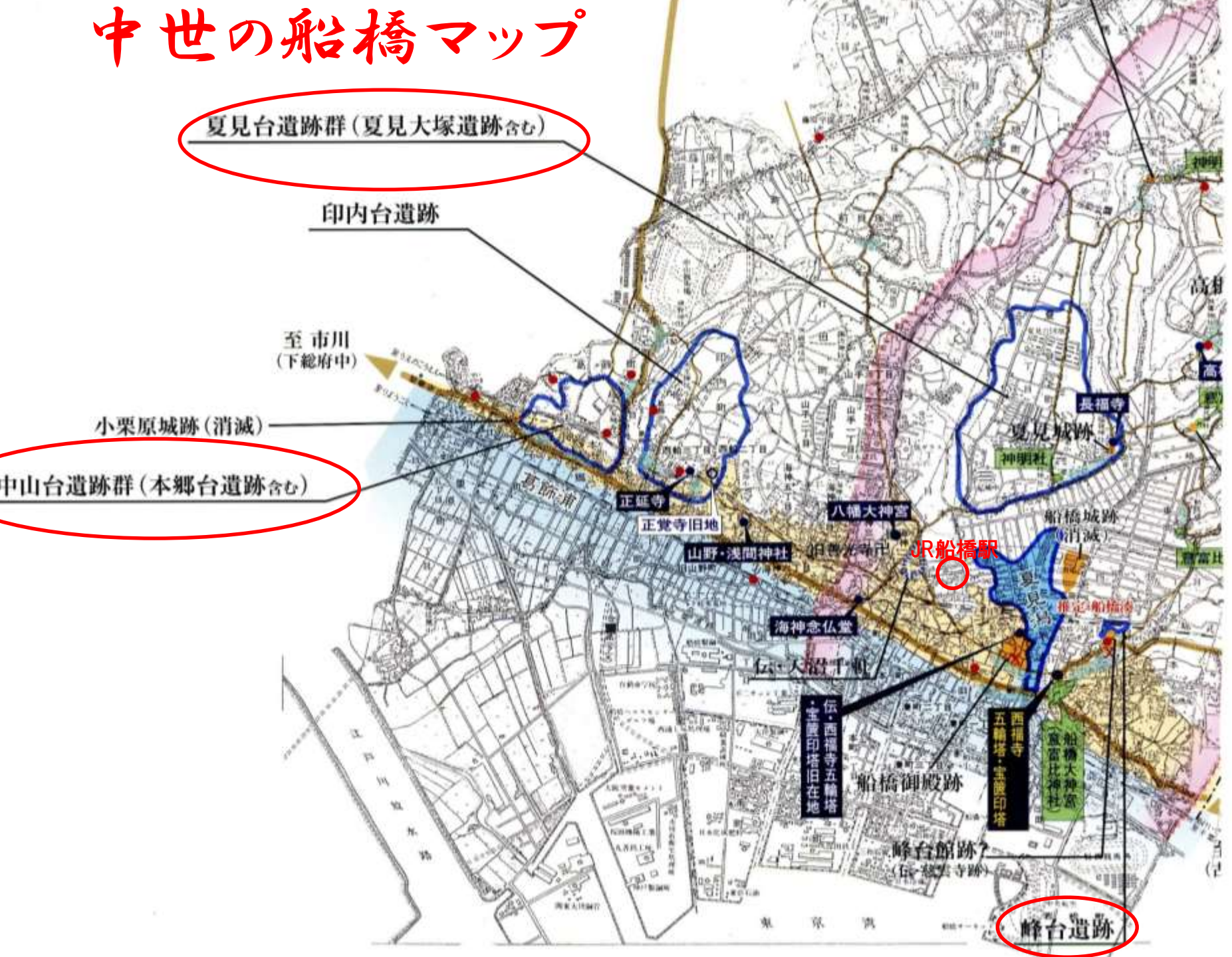
⇔ ○縄文土器（深鉢・浅鉢等）

○歴史時代土師器・須恵器
（甕・杯・皿等）

～生活道具の種類～

- 土器・陶磁器・石器・木器・骨角器
 - ・鉄器・青銅製品など
 - ・但し考古遺物は地中に残るものに限る
 - ・金属や木は腐って殆ど残らない
- 中世の出土遺物は土器・陶磁器が主

中世の船橋マップ



夏見台遺跡群 (夏見大塚遺跡含む)

印内台遺跡

至市川
(下総府中)

小栗原城跡 (消滅)

中山台遺跡群 (本郷台遺跡含む)

JR船橋駅

峰台遺跡

中世前半(12世紀後半～14世紀)の遺跡



峰台遺跡

峰台遺跡の調査





JR総武線の南側、標高4~7mの台地下で調査。右上の台地上は峰台小学校です。





貝殻で舗装した中世の道路跡



右側、台地上のブロック塀は峰台小学校。台地下をぐるりと中世の道路跡がめぐっていた。



貝殻で舗装した中世の道路跡













井戸から木製品が出土

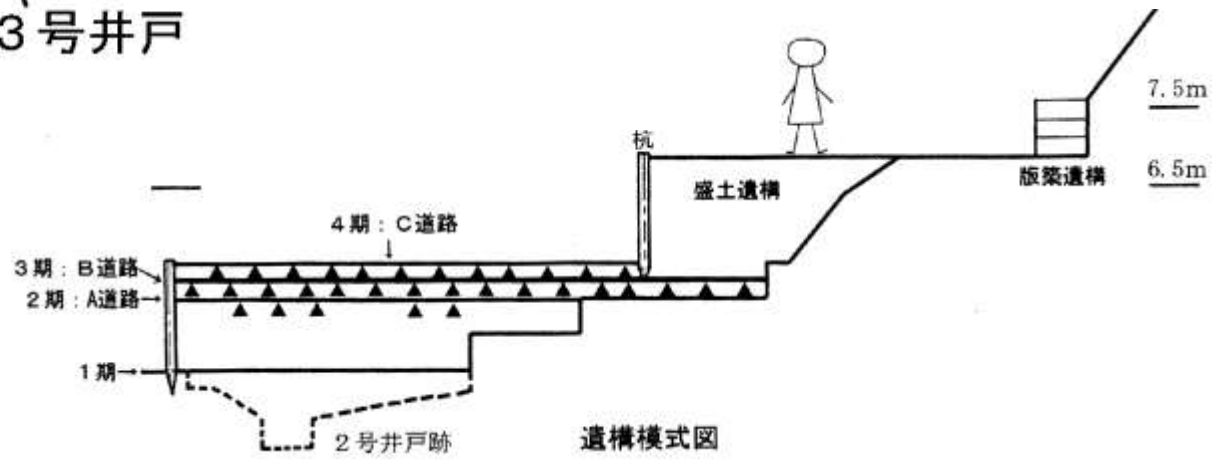
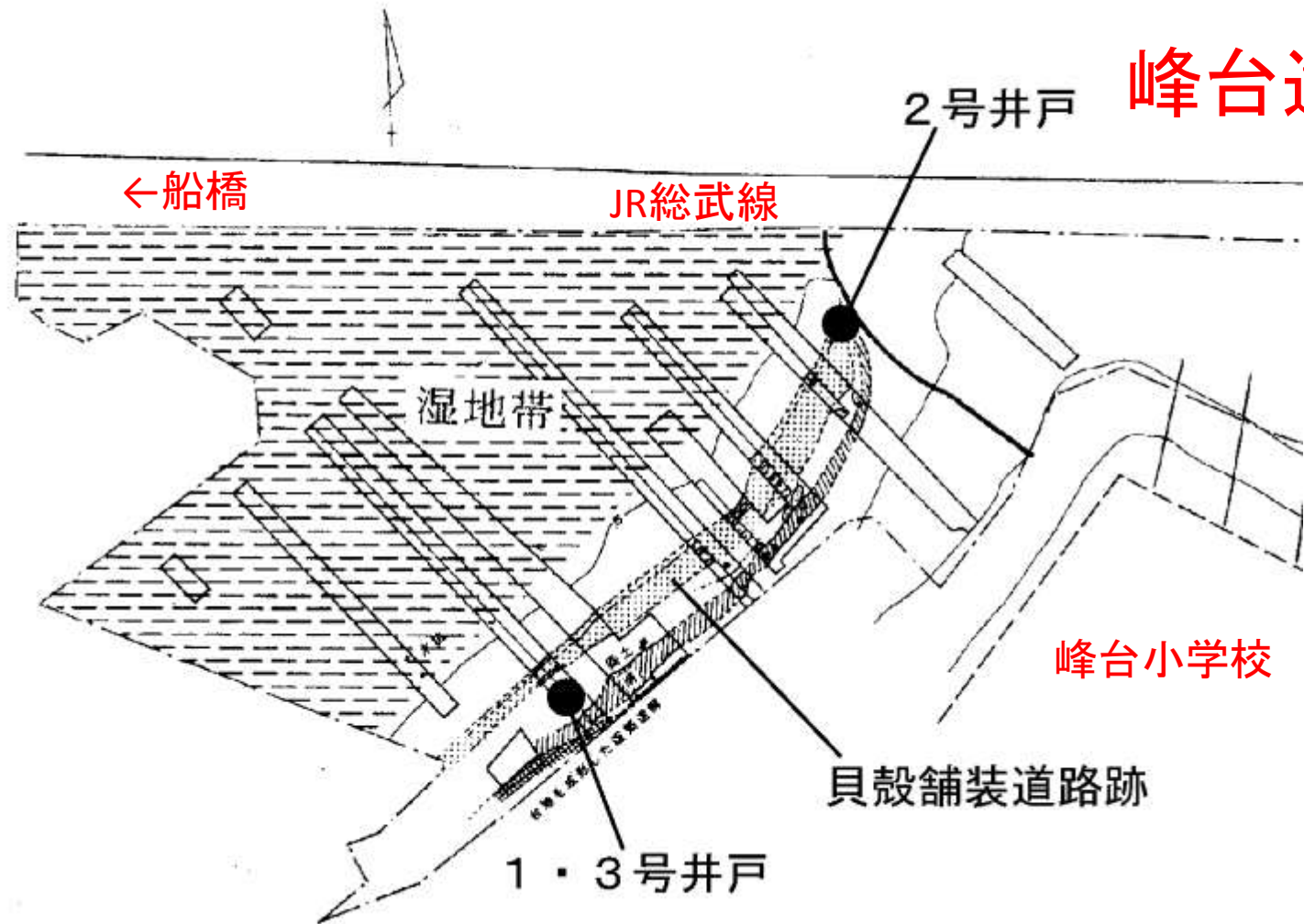


井戸は3基発見されました。標高の低い低地なので、水がわきやすい利点を利用しています。





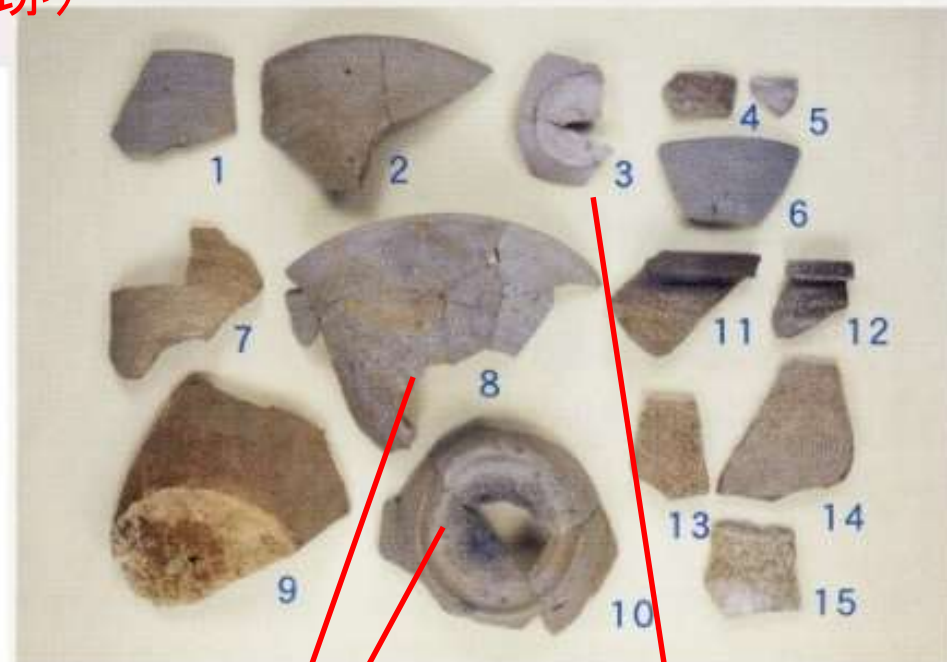
峰台遺跡の調査



峰台遺跡の遺物(十本郷台遺跡)



43. 中国から輸入された高級陶磁器



44. 東海産の陶器 船橋市峰台遺跡出土



54. 常滑産高台付片口鉢 (13世紀) (搦鉢)
鎌倉市大蔵幕府周辺遺跡群出土



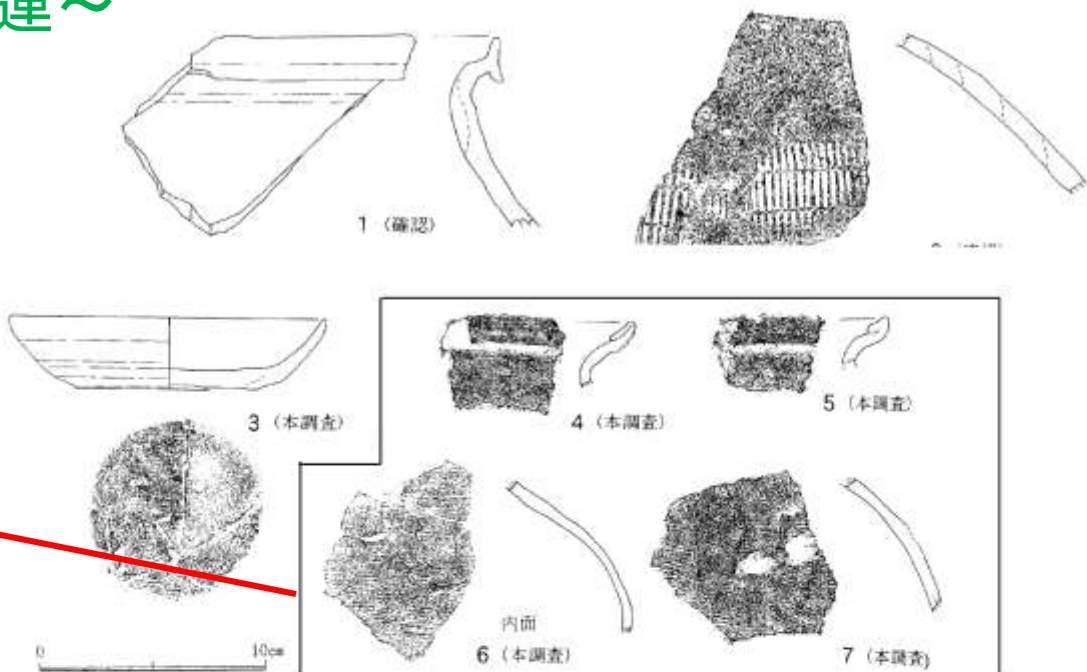
55. 左・山茶碗 (13世紀)
鎌倉市大蔵幕府周辺遺跡群出土
右・山皿 (13世紀)
鎌倉市千葉地遺跡出土 (12世紀)

峰台遺跡の遺物

～中世前半・伊勢との関連～



29. 南伊勢系土鍋（復元）
葛飾区鬼塚遺跡出土（13世紀）
（葛飾区郷土と天文の博物館写真提供）



南伊勢系土鍋



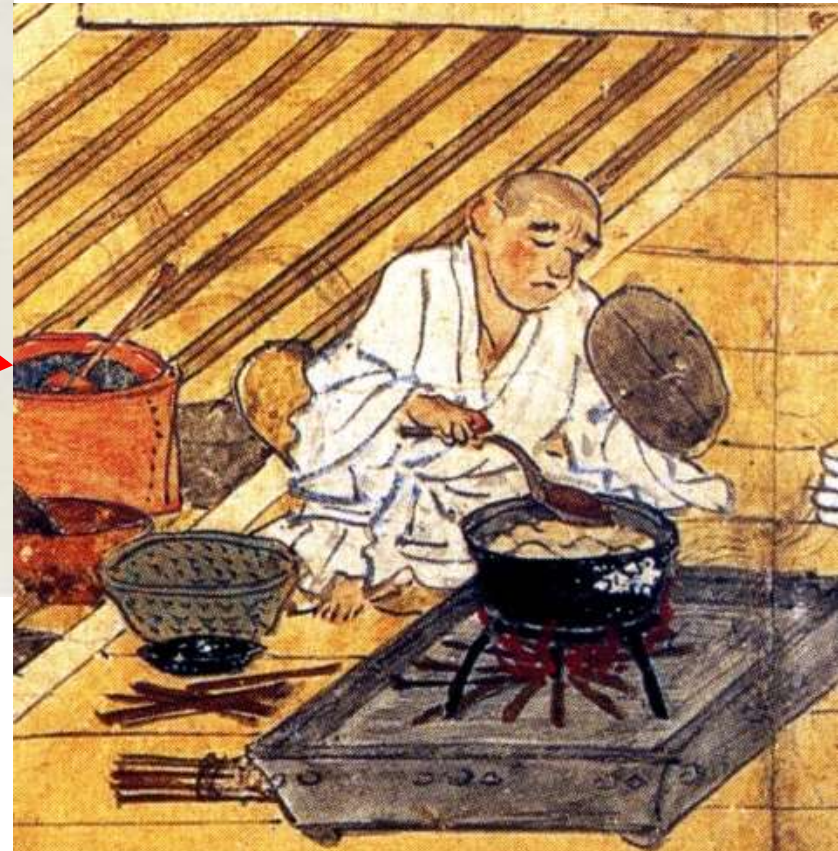
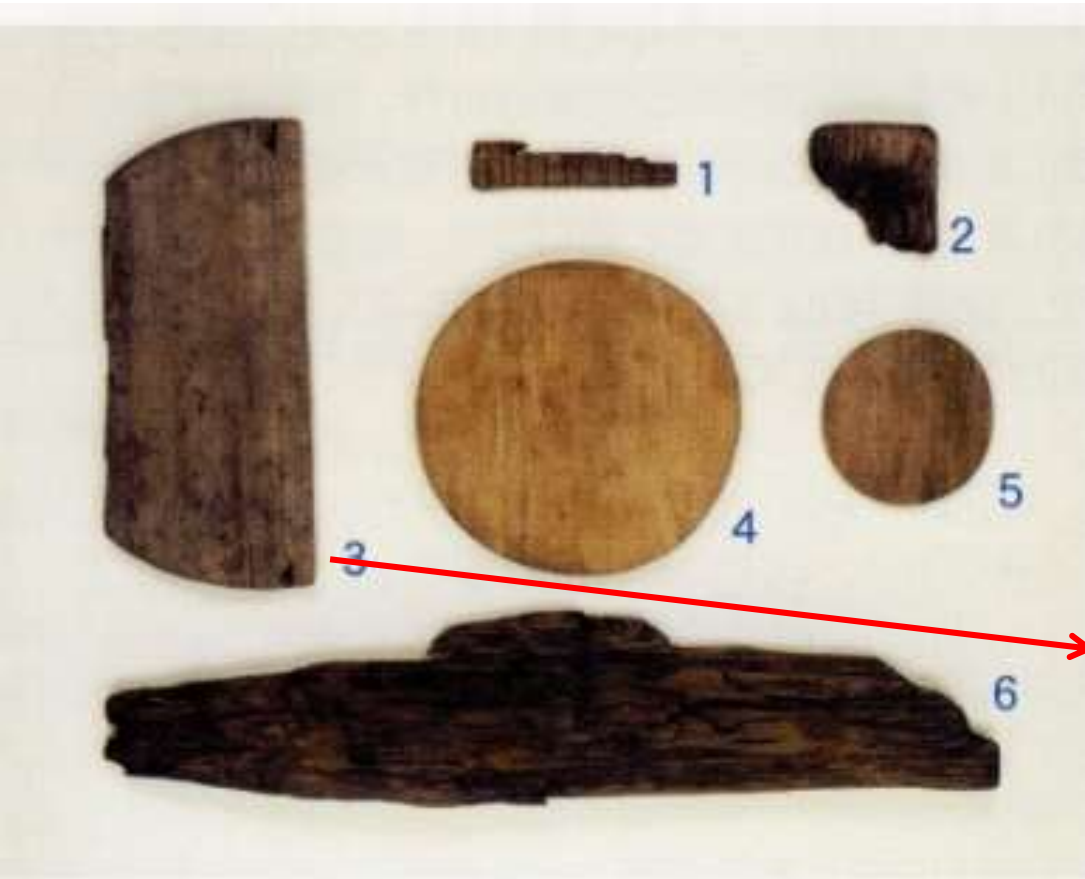
41. 西福寺宝篋印塔下出土 常滑産甕 2点(蔵骨器)
(13世紀後半) *写真展示



常滑産甕鉢・壺

図12 峰台遺跡出土遺物実測図（抜粋）
『房総中近世考古』1号より

峰台遺跡 木製品(井戸出土)



『慕婦絵詞』(西本願寺所蔵)14世紀
(京都本願寺覚如の伝記)より

調査の成果：

県内では数少ない中世前半の遺構・遺物が主体の遺跡

- 中世前半期の夏見御厨及び伊勢神宮、また海上交通と関連する南伊勢系土鍋及び海運に伴う流通品（東海系陶器類）が出土。
- 湍湖の近くに想定される船橋湊の存在及び海上交易を示唆。
- 調査区外の台地上には中世前半は館跡、後半は城館または寺院の存在をうかがわせる。

中世前半の交易品(船橋市出土資料)



28. 南伊勢系土鍋破片
船橋市本郷台遺跡 7次出土
(12世紀後半～13世紀初め)



29. 南伊勢系土鍋(復元)
葛飾区鬼塚遺跡出土(13世紀)
(葛飾区郷土と天文の博物館写真提供)



常滑や渥美窯産(愛知県)の甕
本郷台遺跡第7次ほか

青白磁梅瓶



当時の高級陶磁器
中国で作られた青磁や白磁



白磁碗(中世後半) 青磁蓮弁文碗(中世前半)

青磁劃花文碗
(中世前半)

本郷台遺跡第7次



青磁蓮弁文碗 船橋市本郷台遺跡第7次出土 鎌倉市教育委員会提供

夏見大塚遺跡出土 滑石製石鍋～肥前産～



かっせきせいいなべ
48. 滑石製石鍋破片

船橋市夏見大塚遺跡10次出土 (13世紀)



49. 滑石製石鍋

鎌倉市東勝寺跡遺跡出土 (13世紀)

鎌倉市教育委員会所蔵



=牛4頭に値

3. 中世の湊町(みなとまち)船橋

～湊町・大神宮門前町としての景観～

(文献・地形・地理・気候・古地図・寺社・宗教遺品・伝承などから総合的に考える)

- 船橋の中心地:旧船橋町(本町・宮本・海神東部)
=近世の九日市村・五日市村・海神村
- 地理:東京湾、海老川、諸街道……水陸交通の要衝
- 地形:低地、砂丘、砂州、台地、海、川
(中世前半には潟湖を推定)

○文 献：湊・交通・交易の状況を示す

e.g 後北条氏朱印状の発見「下総船橋津」と表記。

「湊郷」の呼称(船橋大神宮文書)

＝湊町(みなとまち)の存在をうかがわせる

○「五日市場」「九日市場」(高城氏印判状)

＝市立て。大神宮門前町(神明の御町)

○古地図・絵図：下総之国図(船橋は街道交差点)、船橋御殿地絵図(推定中世富氏居館)等

○寺 社:

- ・船橋大神宮(式内社意富比神社)

……9世紀の文献で確認。約1200年間、
船橋を見守る

砂丘上のランドマーク、神官富氏の存在

- ・伊勢神宮領……船橋(夏見)御厨

- ・寺町・漁師町の推定戦国時代起源の寺院群
- ・推定律宗系寺院(西福寺石塔)
- ・天台宗系寺院の存在(船で浅草寺へ向かう)

○気 候：地球規模的な温暖化現象の時代

「鎌倉幕府ができた頃は「中世の温暖期」にあたり、現在よりもやや暖かい時期。西暦1300年～1850年頃は小氷期と呼ばれ、現在よりも年平均気温が0.5～1.0°C程度低い時期となる」

※中世海進→海水準が上昇して潟湖を形成
(中世前半) = 湊の存在を推定・・・等々

東京湾・海老川河口・船橋大神宮

東京湾

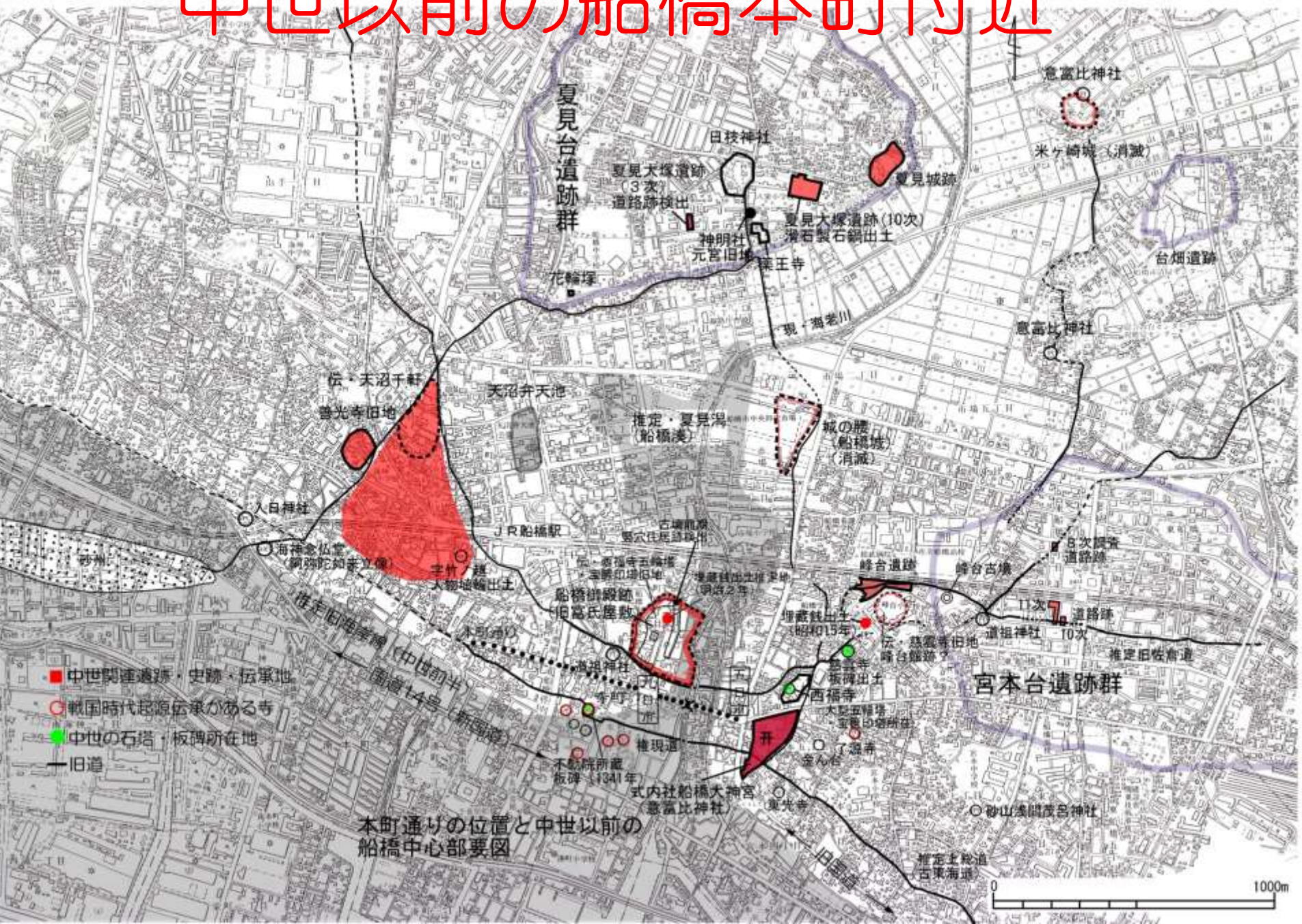
本町通り

海老川

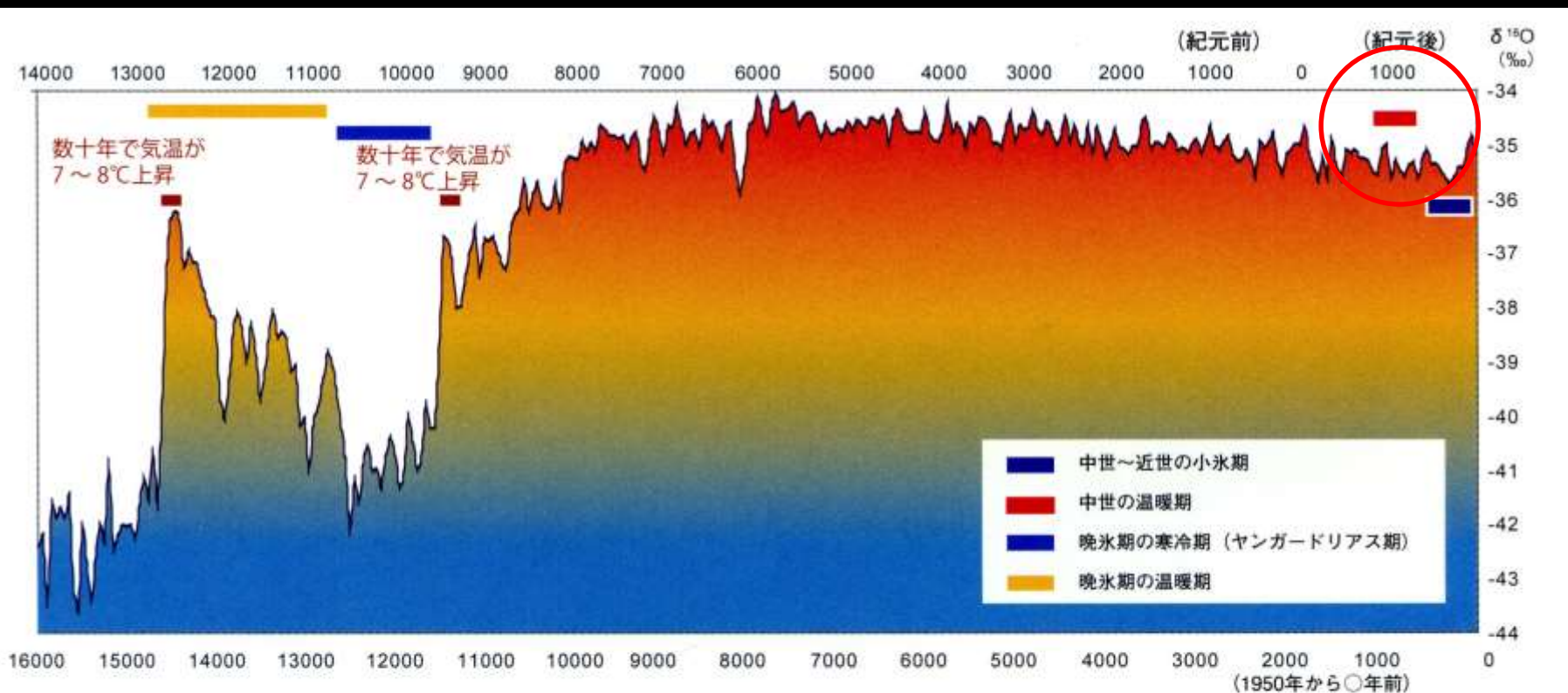
船橋大神宮



中世以前の船橋本町付近

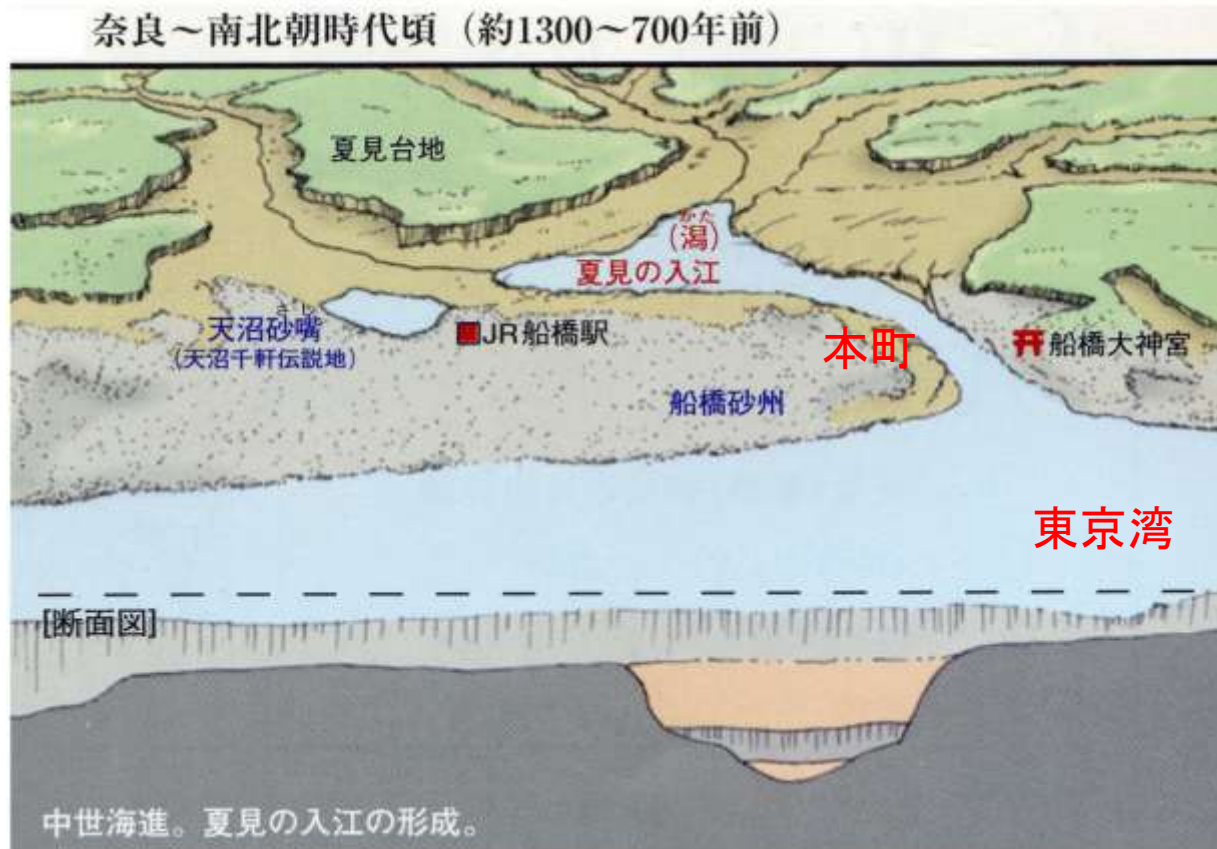


中世の温暖期



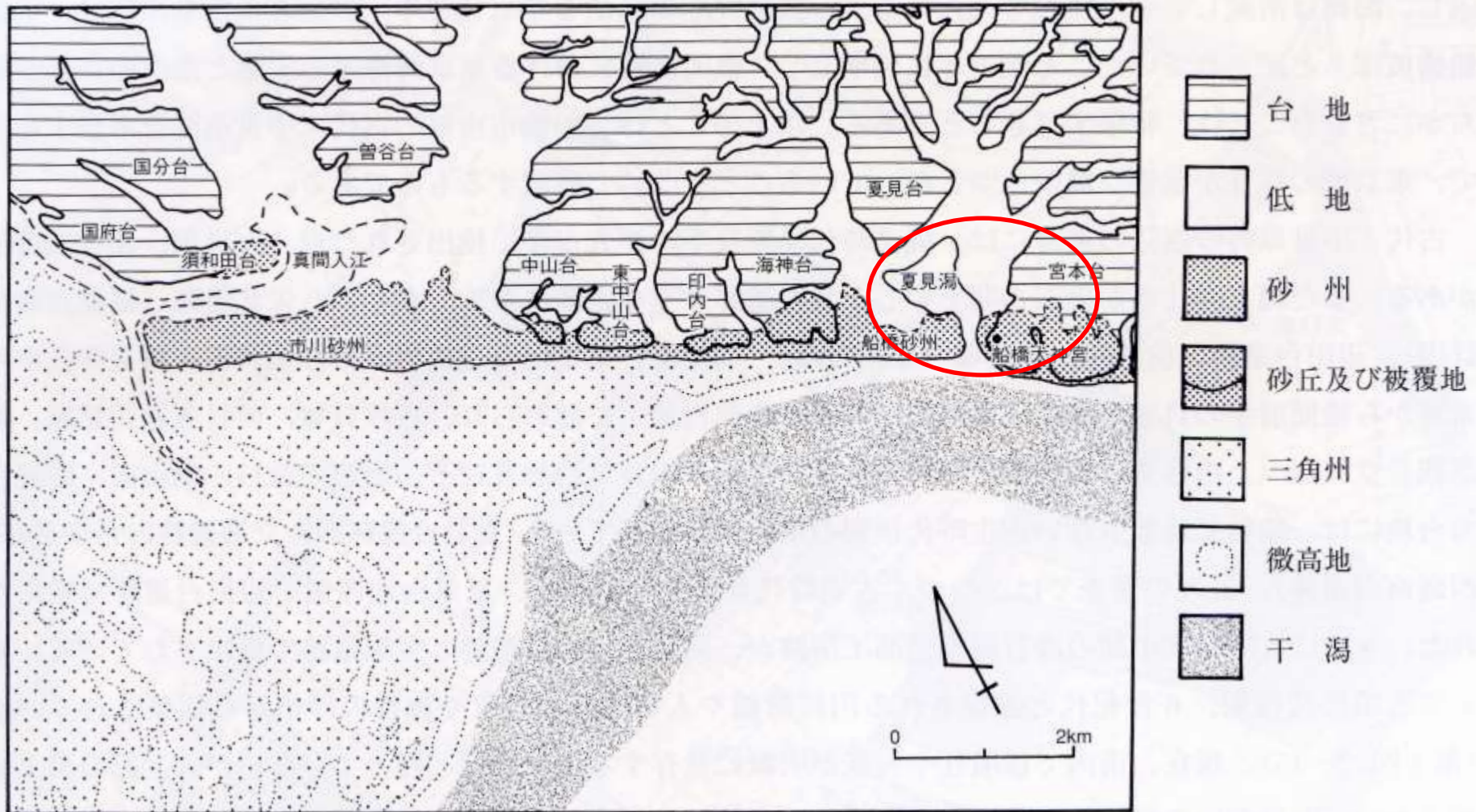
グリーンランド氷床コアから復元された、過去1万6000年間の気温の変化 工藤雄一郎原図
Reconstructed climate change of the past 16,000 years by NGRIP

中世前半頃の船橋(推定図)



滝口昭二氏原図

古代から中世の東京湾北岸部推定地形図



第2図 古代から中世の東京湾北岸部推定地形図 (1/80,000 滝口昭二原図作成)

夏見御厨と荘園分布図

水上交通との関連



27. 船橋周辺の荘園分布図（古代末～中世前半）

下総之国図(戦国時代末期を描く)



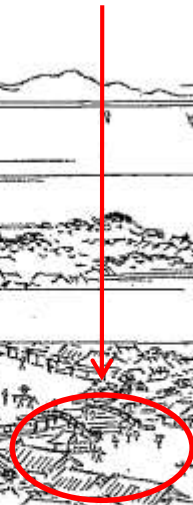
陸上交通との関連

成田名所図会に描かれた 船橋大神宮・海老川橋・東京湾

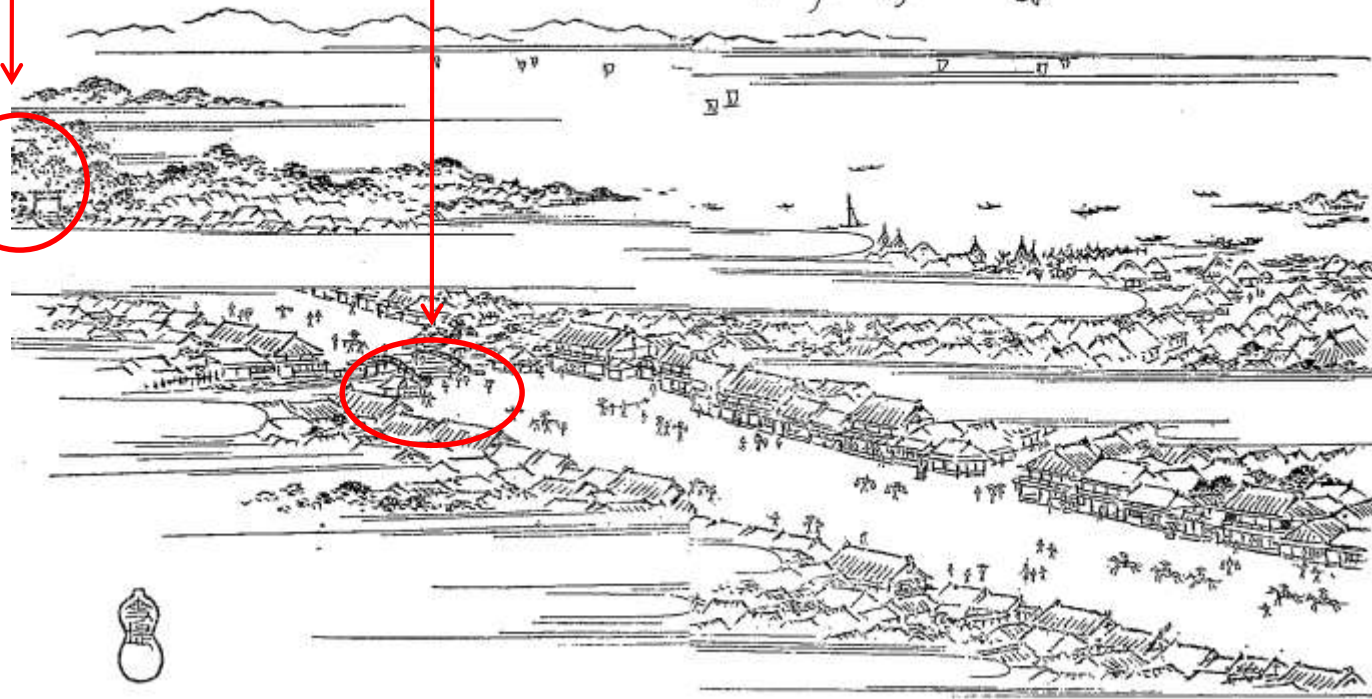
安政5年(1858)刊行

船橋大神宮

後世の“海老川橋”



海上眺望
船橋驛
乃圖
付く
足柄小平
つゆ海
不社
船乃
大江戸
渡臣





新田源親工

こと

あき

幾

あ

あつひ



勝間田池
 栗原大將の
 地あり故に
 木舞の溜池と
 号く

万葉集

あつひ

は

われ

あ

あ

あ

19. ^{えどめいしよずえ}江戸名所図会に描かれた^{かつしかうら}葛飾浦
 (勝間田池) 船橋市西図書館所蔵

3. 物流を示す出土資料 (中世前半・後半)

①搬入品 ②在地品

○広域流通品 = 搬入品 (遠隔地) おもに海を介した交易品

1. 陶磁器 (国産品) 東海地方の諸窯から～
瀬戸・美濃窯製品、常滑窯製品、渥美窯製品、湖西産山茶碗
2. 陶磁器 (輸入品) 貿易陶磁：中国産青磁・白磁・青白磁・染付
3. 土器 (国産品) 東海系土製煮炊具 (南伊勢系土鍋、東海系羽釜等)
4. 金属製品 (輸入品) 銭貨 (中国) 北宋・明銭等
5. 石製品 (国産品) 滑石製石鍋 (推定長崎県)、板碑 (北関東)
6. 木製品 (国産品) 結桶、曲物等

○狭域流通品 = 在地品 (関東近県) おもに陸・河川等

内耳土鍋 (武蔵・常陸・下総産? 他)、土器擂鉢 (内耳土鍋と共通か)、土製釜 (県北東部に多く出土)、カワラケ等

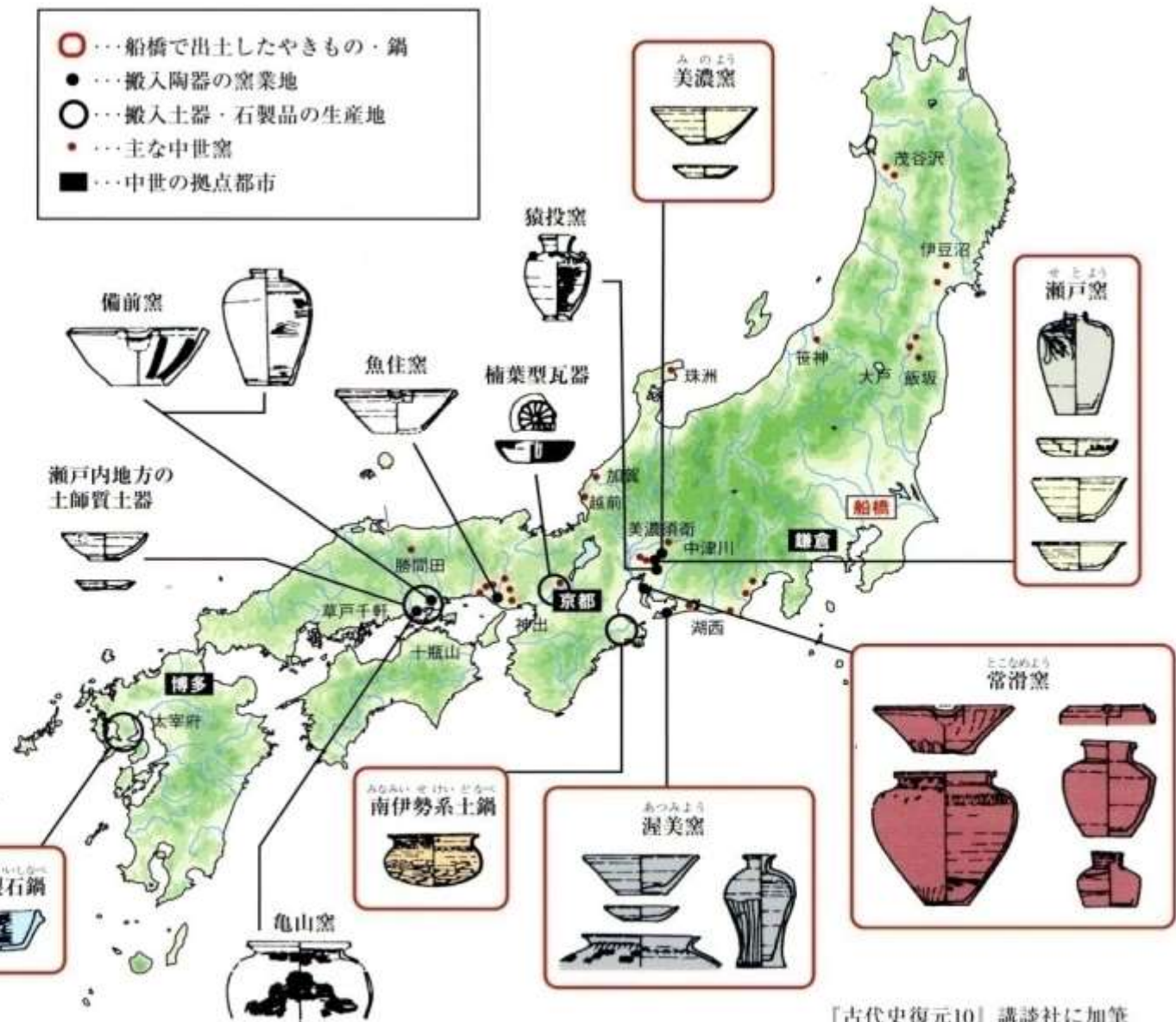
出土資料にみる物流(湊の存在を補強)



図1 中国大陸古窯跡分布図

(京都国立博物館編「日本人が好んだ中国陶磁」より)

---日本に輸出された中国の焼物
(青磁・白磁・青白磁・染付他)の窯跡

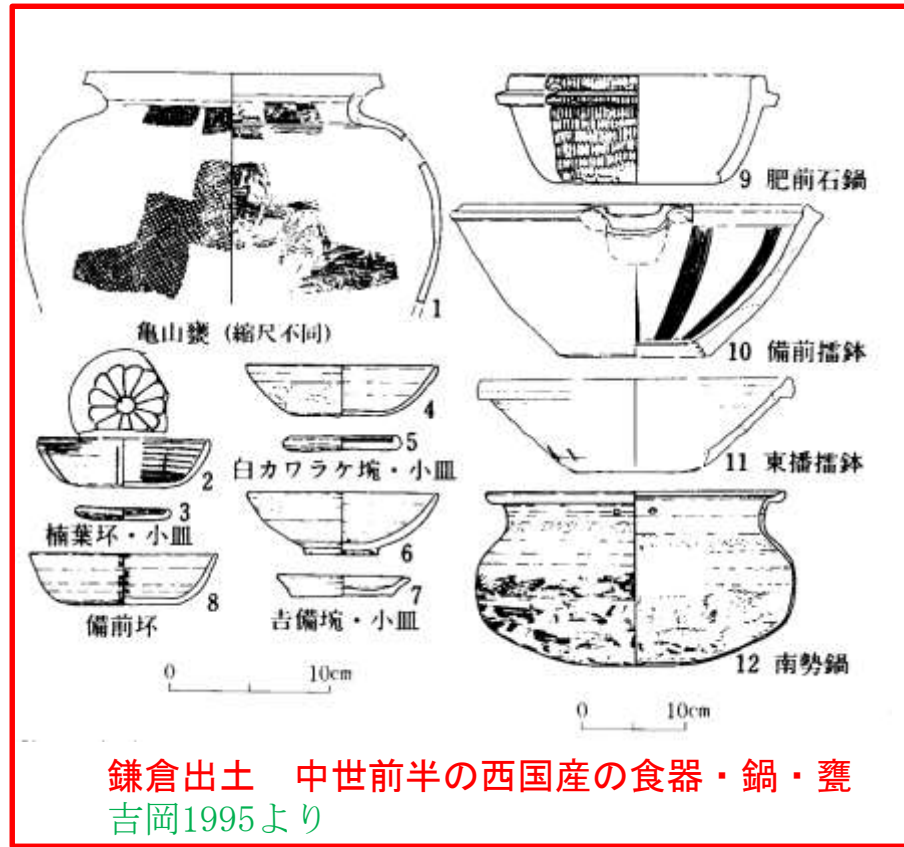


「古代史復元10」講談社に加筆

50. 船橋をめぐる物流図

さまざまな製品が東国第一の都市・鎌倉へ船で運ばれ、次に船橋(湊)へ同じく船で輸送されたと考えられます。

鎌倉市出土の搬入品 (中世前半)



鎌倉出土 中世前半の西国産の食器・鍋・甕
吉岡1995より

図5 今小路西遺跡北区武家屋敷3面の中国陶磁(註47文献より作成)

鎌倉市今小路西遺跡北区武家屋敷出土の中国陶磁
吉岡1995より

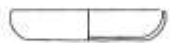
南伊勢系鍋の分布(中世前半)



29. 南伊勢系土鍋(復元)

13世紀中葉頃の南伊勢系土師器

皿



鍋

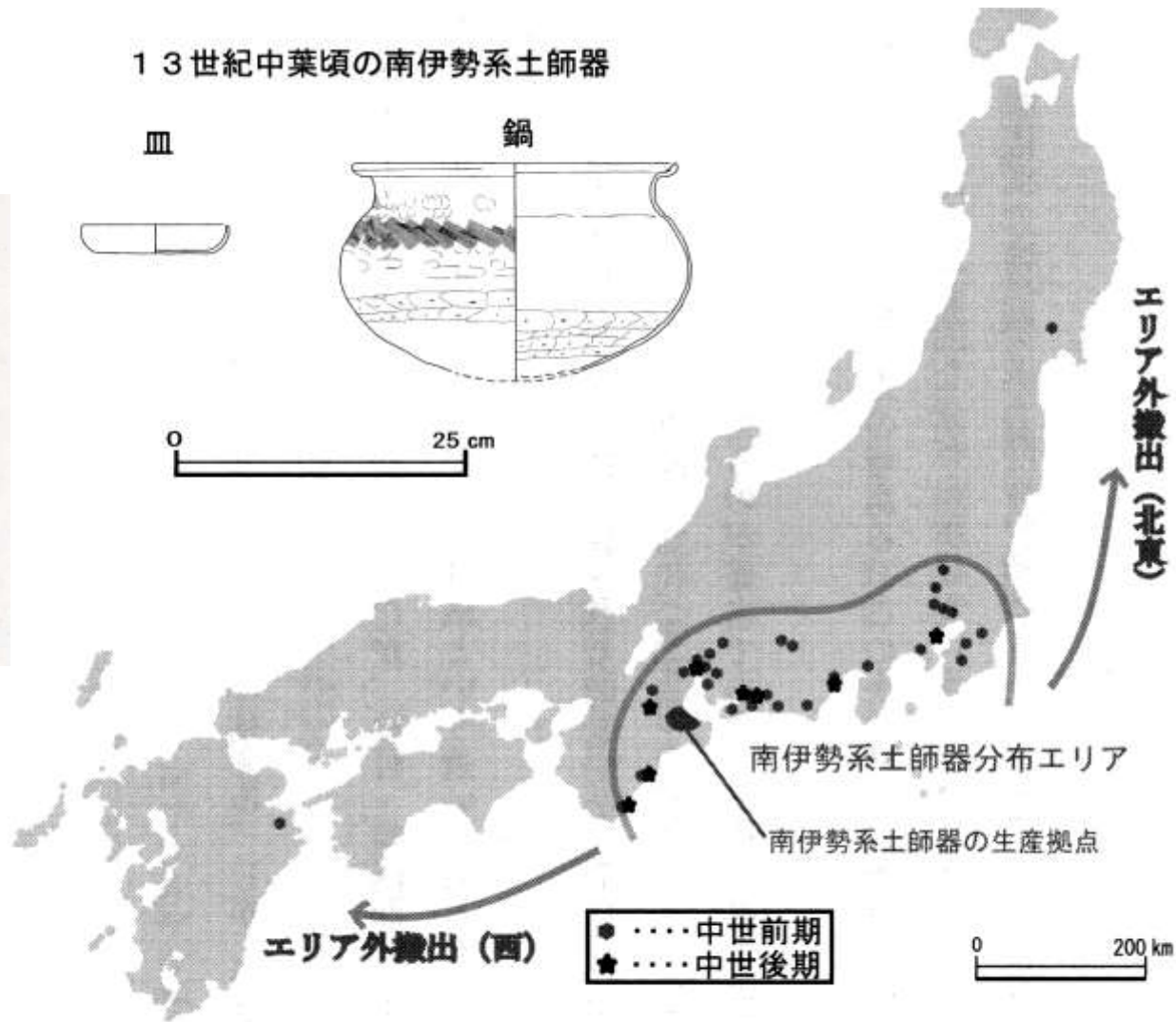
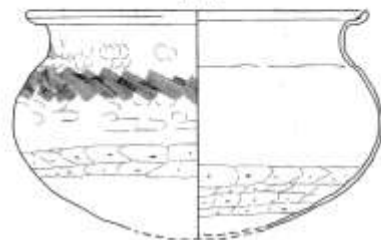


図29 南伊勢系土師器の分布図

伊藤裕偉『中世伊勢湾岸の湊津と地域構造』より

房総出土の東海系土器



◎南伊勢系鍋の分布
(中世前半)

第3図 房総出土の東海系煮炊具分布図

南伊勢系鍋の分布(中世前半＝鎌倉時代)

- 房総では9遺跡で確認 (少ない)
- 東京湾岸にほぼ集中
- 海上・陸上交通の要衝で出土
- ・中世前期の有力階層の屋敷
 - ・寺社
 - ・港湾周辺の流通拠点(峰台遺跡)
- 「商品」ではなく「特殊品」(常滑窯製品の副次品として特権的に入手か)
- 船運関係者の携帯品か
- 御厨特有の遺物ではない。(御厨の立地を含めた)伊勢神宮及び伊勢地方の人々の関与(貢納品の輸送網等との関連)

東海系羽釜の分布 (中世後半期＝戦国時代)



船橋市東中山台遺跡群
(8・9)地点出土

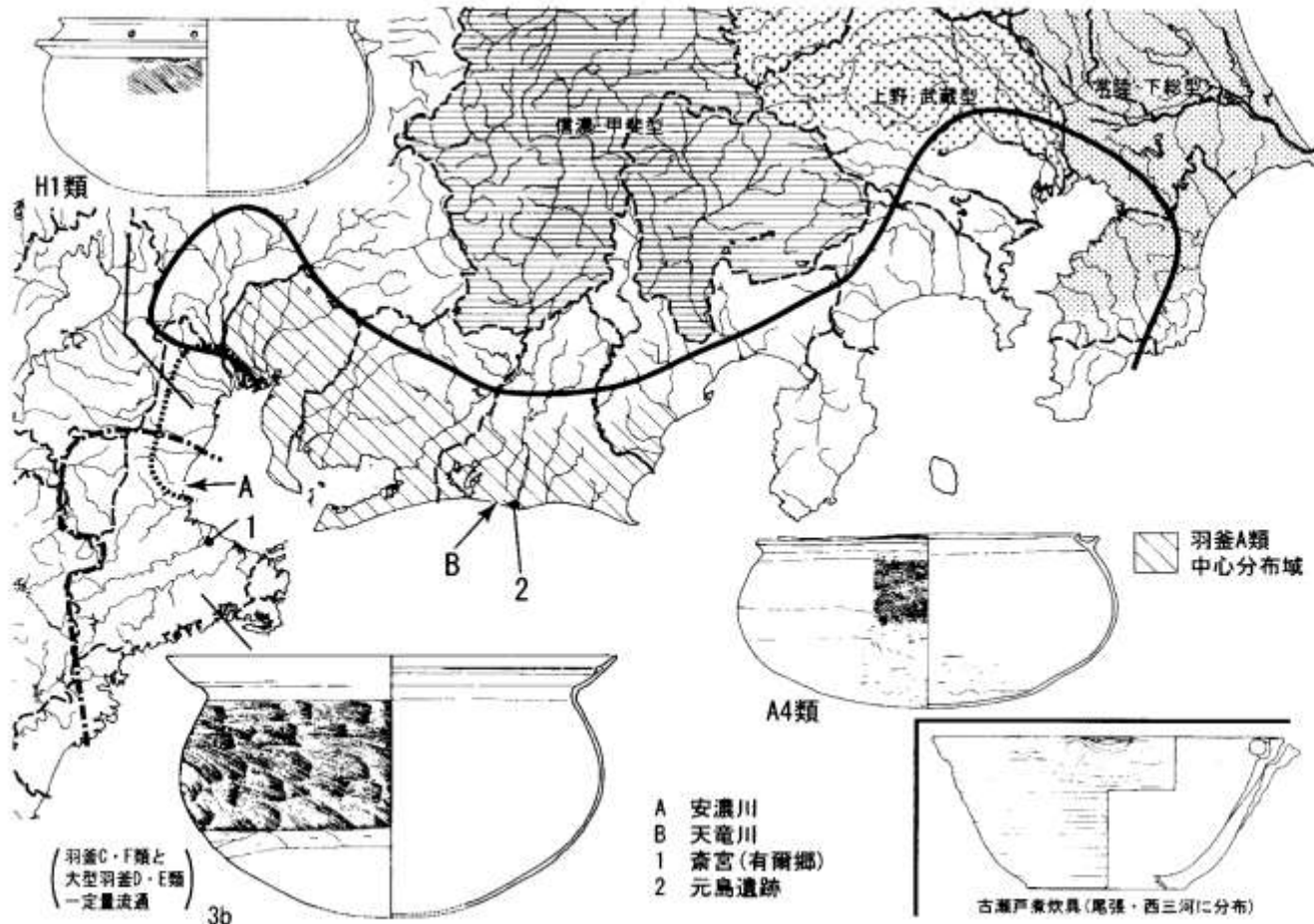


佐倉市高岡大福寺遺跡出土

『ふるさと読本 中世の佐倉』より

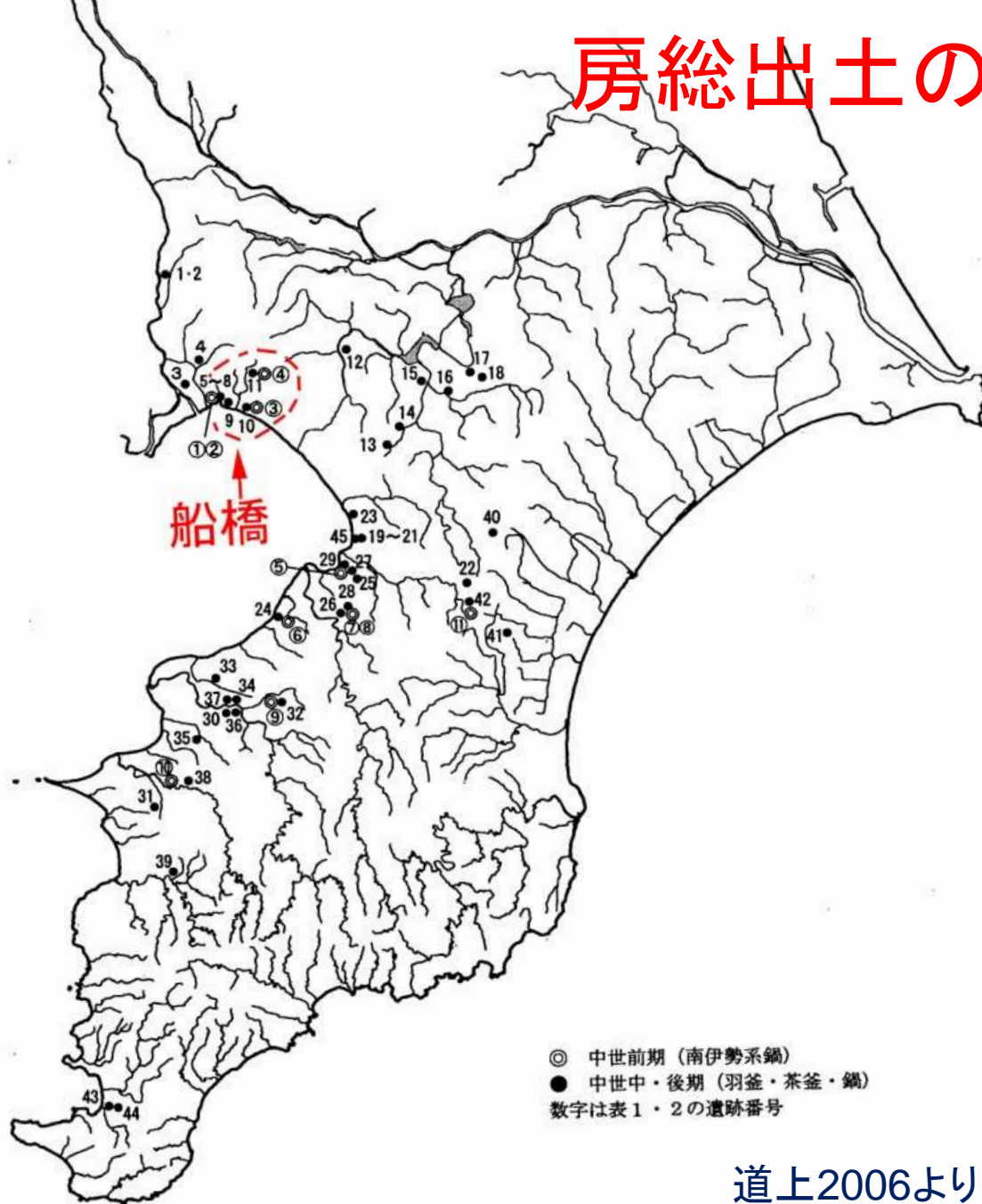
- 超薄手 (min 2ミリ) で熱効率がよい。船橋では羽釜形が多く出土。
鍋形は稀少品。茶釜は出土していない。
- 鉄製品模倣。湯沸し。羽釜形だがカマドにかけるのではなく、囲炉裏の使用を想定 (五徳にかける、または吊り下げる (穿孔品 (穴あき) あり)) 。

東海系羽釜の出土分布(中世後半)



第5図 15世紀前半(内耳鍋出現以前)の様相(S=1/8)

房総出土の東海系土器



第3図 房総出土の東海系煮炊具分布図

東海系羽釜にみる物流 (中世後半＝戦国時代)

○39遺跡45地点で出土 (2006年現在)

○一遺跡に数個体レベルの出土

(瀬戸・美濃窯製品に比べると非常に少ない稀少品)

①おもな出土地 城跡、主要集落(分布が広域になる)

②立地

- ・ 東京湾岸
- ・ 主要河川の河口
- ・ 印旛沼流域
- ・ 太平洋岸と東京湾をつなぐ分水嶺 (交通の要衝)
- ・ 在地系土製釜 (房総東部に分布) が出土しない地域

③ 出土地の性格：

○ 河口に湊が想定される集落跡（峰台遺跡
・ 東中山台遺跡群など）

○ 流通の核となる主要城跡

④ その他の特徴：

○ 瀬戸・美濃窯製品とともに流通した可能性

中世の特徴

- “都市船橋”の原型が成立した時代
- 現在の生活様式の基本パターンがうまれた
- 全国各地に要津(主要な港)が存在する
→国内および海外との交易がさかん

まとめと課題

◎中世の船橋～海上を主とした物流の状況、
湊の存在を出土資料で裏づけられるようになった

◎課題：

○港湾施設そのものの発見

(e. g. 香川県では石積み施設発見)

○今日の船橋の原型を考えるために、

(そして未来を考えるために・・・)

中世船橋の学際的・総合的な調査・研究
をさらに推進する必要がある。